

## 令和2年度 在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

1	静岡市在宅医療・介護連携協議会及び部会報告	2
2	「自宅でずっと」在宅医療・介護連携推進事業	7
3	医療・介護・福祉スーパーバイザー人材配置事業	9
4	専門職対象研修・在宅医療市民公開講座	10
5	在宅医等養成研修事業	11
6	在宅医療出前講座	12

## 1 協議会・部会

### (1) 協議会

### 協議会委員

(50音順)

	日時	主な議題
第1回	5月29日(金) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度 在宅医療・介護連携推進事業実績報告</li> <li>令和2年度 在宅医療・介護連携推進事業計画</li> <li>医療と介護の連携に関する実態調査概要について</li> </ul>
第2回	12月4日(金) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況</li> <li>「静岡市健康長寿のまちづくり計画」の中間評価について</li> <li>※計画について、メール、FAXにて意見徴収を実施</li> </ul>
第3回	3月23日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本福祉大学笹川先生による講演「健康長寿のまちづくり計画」に係る静岡市の介護保険給付実績について</li> <li>令和2年度 在宅医療・介護連携推進事業 実績報告</li> <li>「静岡市健康長寿のまちづくり計画」(中間見直し)について</li> </ul>

	所属	氏名(敬称略)
1	静岡県リハビリテーション専門職団体協議会	和泉 謙二
2	市民委員	岩崎 祐子
3	一般社団法人 静岡県医師会	岡 慎一郎
4	市民委員	小野 不三江
5	地域包括支援センター(大里高松)	勝山 友貴
6	一般社団法人 静岡市ケアネット協会	近藤 久美子
7	一般社団法人 静岡市静岡歯科医師会	佐々木 優
8	清水薬剤師会	柴田 昭
9	清水介護保険事業者連絡会	千葉 哲光
10	静岡県公立大学法人 静岡県立大学	富安 眞理
11	静岡県医療ソーシャルワーカー協会	中村 敬
12	一般社団法人 静岡市静岡医師会	福地 康紀
13	静岡市訪問看護ステーション連絡会	三輪 恭子
14	地方独立行政法人 静岡市立静岡病院	山田 孝
15	一般社団法人 静岡市清水医師会	吉永 治彦

## (2) 企画部会

### <計画>

- ・(仮称)円滑な退院支援モデル普及事業について回復期病院と在宅との連携を企画し、情報共有部会と合同で開催するなど、事例を基に検討する。
- ・地域リハビリテーションの推進を視野に、介護予防事業(フレイルチェック)や保健事業との一体的実施の体制について検討し、事業計画への反映や次年度当初予算へ反映できるか検討を行う。
- ・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にあたり、2025年、2040年を見据えて、必要なデータを整理し、医療・介護連携の推進を図るための課題と今後の方向性を決定し、計画に位置づけていく。
- ・将来を見据えた在宅医療・介護連携のあり方検討に関し、介護給付における継続課題(下記①～③)を検討するとともに、医療から見た現状把握と対応策、解決策等について協議する。

- ① 短期入所、訪問看護などの需要増加への支援
- ② 認知症がある利用者を重症化させない取組
- ③ 在宅医療に対するの市民啓発と、診療所、訪問看護ステーションなどに対する最期まで看るという意識啓発等

	日時	議題
第1回	8月13日(木) 午後7時15分～9時20分 ※情報共有部会と合同開催	・「自宅でずっと」在宅医療・介護連携推進事業の取組について ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について ・ICTの活用
第2回	令和3年1月26日(火) 午後7時15分～9時00分	・「退院支援モデル普及事業」検討会の課題をうけて
第3回	令和3年3月12日(金)	・令和3年度「シズケア*かけはし」を活用したモデル事業(仮称)について(案)

	所属	氏名(敬称略)
協議会会長 (部会長)	静岡県医師会	岡 慎一郎
委員(臨時)	静岡市静岡歯科医師会	尾崎 元紀
委員(臨時)	静岡県リハビリテーション専門職団体協議会	菊池 和幸
委員	清水薬剤師会	柴田 昭
委員(臨時)	静岡市清水医師会	田村 憲
委員(臨時)	静岡県立大学	東野 定律
委員	静岡市静岡医師会	福地 康紀
委員(臨時)	静岡厚生病院	水野 伸一
委員	静岡市立静岡病院	山田 孝

### <検討結果>

第1回目の部会では、令和2年度「自宅でずっと」在宅医療・介護連携推進事業の取り組みについて説明し、委員からは、「退院支援モデル普及事業」について、検討メンバーの職種の提案や、現在の退院支援の実際について、調査の提案などの意見があった。また、ICTの活用について、委員からICT活用の現状について意見交換し、ICTの活用はまだ十分ではなく、今後更なる活用が必要との意見があった。

第2回目の部会では、第1回部会の意見を受け、退院支援の実際について情報を得るため、MSWによる「病院における退院支援の実際についての意見交換会」を企画したが、コロナの感染拡大を受け中止となり、事前に病院にとった退院支援に関するアンケート調査をまとめ、報告した。また、退院支援モデル普及事業の課題を受け、回復期病院から在宅への退院支援の現状と課題について意見を得た。病院と地域の更なる情報共有や、退院前カンファレンスの効果的な運用、必要な情報の集約の必要性等の意見があった。

第3回目の部会では、第4回情報共有部会で検討した、「シズケア\*かけはし」を活用したモデル事業について、企画部会でも検討を行った。セキュリティーの高いICTを活用した情報共有を進めることで、市民に対してチーム支援を提供できるとの意見があった。今後は退院支援を含めた「シズケア\*かけはし」を活用した情報連携をモデル的に実施し、効果を検証することとなった。

### (3) 情報共有部会

#### <計画>

- ・2020年度から実施を見込む「(仮称)円滑な退院支援モデル普及事業」の事例等について、企画部会と合同で検討を進める。(特にシステムの活用を担当)
- ・新型コロナウイルス感染症の対策を含め、ICT等の活用を進め、在宅医療と介護の連携を推進していく。
- ・システムの活用に係る次年度以降の取組を検討する。

	日時	議題
第1回	8月13日(木) ※企画部会と合同開催	・「自宅でずっと」在宅医療・介護連携推進事業の取組について ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について ・ICTの活用
第2回	9月29日(木) 午後7時15分～9時00分	『シズケア*かけはし』等、ICTの活用について
第3回	12月4日書面開催	・令和3年度「シズケア*かけはし」を活用した圏域ケア会議モデル事業について(案)
第4回	令和3年2月22日(月) 午後7時15分～9時00分	・情報共有のためのシステムについて

	所属	氏名(敬称略)
協議会会長 (部会長)	静岡県医師会	岡 慎一郎
委員(臨時)	静岡市薬剤師会	河西 きよみ
委員	静岡市静岡歯科医師会	佐々木 優
委員	清水介護保険事業者連絡会	千葉 哲光
委員	静岡県医療ソーシャルワーカー協会	中村 敬
委員	静岡市静岡医師会	福地 康紀
委員(臨時)	静岡赤十字病院	間淵 元子
委員	静岡市訪問看護ステーション	三輪 恭子

#### <検討結果>

第1回目の部会では、令和2年度「自宅でずっと」在宅医療・介護連携推進事業の取り組みについて説明し、委員からは、「退院支援モデル普及事業」について、検討メンバーの職種の提案や、現在の退院支援の実際について、調査の提案などの意見があった。また、ICTの活用について、委員からICT活用の現状について意見交換し、ICTの活用はまだ十分ではなく、今後更なる活用が必要との意見があった。

企画部会と合同開催後、ICTに関する意見交換会として、有識者(ケアマネ、薬剤師、包括等)による有識者会議を行った。所属先での現在のICTの使用状況から、現状における課題を出し、今後参入を図るための方策について意見交換を行った。それを受け、第2回情報共有部会では地域ケア会議や退院カンファレンスなどでのICTの活用の必要性や、利用活性化につなげるための市の利用料負担についての意見があった。

第3回の部会は、書面開催都市、令和3年度「シズケア\*かけはし」を活用した圏域ケア会議モデル事業について、メールやFAXにて意見を徴収した。

その後、情報共有部会事前ワーキンググループ(病院、ケアマネジャー、地域包括支援センター等)を開催しモデル事業について意見を得た。病院は画像の共有等、地域に情報の受け手がいれば活用の方法はあるとの意見や、ケアマネジャーが介護事業所に「シズケア\*かけはし」の加入を進めても、利用料が負担となり、加入が進まないこと等の意見があった。

第4回の部会では、モデル事業について、ワーキンググループから得た意見を提示し、内容について再検討した。在宅で情報共有の中心になるのはケアマネジャーのため、圏域にこだわらない事業の実施が望ましいこと、ケアマネジャーのみが加入しても、介護事業所の加入がなければケアマネジャーの負担は軽減しないこと、多くの医療、介護サービスを必要とする利用者のケアマネジャーの選定が望ましいこと等の意見が得られた。

## (4) 啓発研修部会

### <計画>

- ・令和3年3月頃に開催を予定する専門職対象研修の企画、運営を行う。
- ・研修にあたっては、ミーティングと連動させるため、退院支援をテーマとして実施したい。
- ・次年度以降も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策となる動画配信やテレワークの活用等を踏まえた研修方法について、検討を進める。

	日時	議題
第1回	9月8日(火) 午後9時15分～8時30分	・令和2年度 在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職、市民のための研修会について
第2回	10月2日(金) 午後6時30分～8時	・令和2年度 医療・介護専門職、並びに市民のための研修会の企画
第3回	11月24日(火) 午後6時30分～8時	・令和2年度 在宅医療・介護のための研修会の企画
第4回	令和2年2月19日(金)	※研修会の延期に伴い中止

	所属	氏名(敬称略)
委員	静岡県リハビリテーション専門職団体協議会	和泉 謙二
委員	市民委員	岩崎 祐子
委員	静岡市ケアマネット協会	近藤 久美子
委員(臨時)	静岡市静岡医師会	平野 周太
委員	静岡市訪問看護ステーション連絡会	三輪 恭子
委員(部会長)	静岡市清水医師会	吉永 治彦

### <検討結果>

令和2年度 静岡市市民公開講座について、第1回から第3回の部会にて、企画、立案を実施した。第2回目からは、講師候補者にも部会に参加してもらい、ディスカッションを重ねながら内容を検討した。

#### 令和2年度の研修企画案

- ・今年是在宅医療・介護連携のための医療・介護専門職の研修と、市民のための研修会を合同で行う。
- ・日時：令和3年3月6日(土) 午後3時～5時半
- ・会場：カーニープレイス(静岡市清水区江尻東1丁目1-5)
- ・講師：静岡大学 農学部 竹之内 裕文教授
- ・テーマ(問い)：「よい人生の終わり方」とは、どのようなものだと思いますか？」
- ・方法：来場参加者に加え、オンライン形式のハイブリッド研修とする。テーマに沿い、グループ毎ディスカッションするミーティング方式で実施予定。
- ・今後：令和3年度に、啓発研修部会で再検討し、同研修会を実施する予定。



## (5) 地域支援部会

### <計画>

- ・「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業を主たるテーマに、各圏域が継続的に地域ケア会議として取組み、医療・介護専門職や地域住民が参加して進めていけるよう年間計画の進捗管理を行い、開催運営の支援を行っていく。
- ・年度の進捗管理等を行うとともに、今後の地域ケア会議活性化に向け4年間の検証と方向性を検討する。

	日時	議題
第1回	7月27日(月) 午後7時15分～8時40分	・令和2年度「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業「自宅ですっと」ミーティングの取組みについて
第2回	令和3年3月3日(水) 書面開催	・自宅ですっとミーティング(圏域ケア会議)の開催実績 ※メール、FAXにて意見徴収を実施

	所属	氏名(敬称略)
委員	市民委員	岩崎 祐子
委員(臨時)	静岡市静岡医師会	遠藤 博之
委員	市民委員	小野 不三江
委員	地域包括支援センター(大里高松)	勝山 友貴
委員(臨時)	静岡市清水医師会	宗 幹之
委員(部会長)	静岡県立大学	富安 眞理
委員(臨時)	JA静岡厚生連 清水厚生病院	成島 道樹
委員(臨時)	静岡市介護保険事業者連絡協議会	三重野 隆志

### <検討結果>

第1回の部会では、令和元年度までの「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業「自宅ですっと」ミーティング実績と、令和2年度の「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業「自宅ですっと」ミーティングの取組みについて報告を行った。

委員から、地域包括支援センターで継続実施している「自宅ですっと」ミーティングについて、参加者を増やすためにも、地域の実情に合わせた地域課題の検討が必要であり、それを地域にわかりやすくフィードバックしていくことが大切との意見があった。また、ICTをうまく利用することで、今まで関心のなかった層にもアプローチができる可能性があること、メディアを活用するなどして、情報発信を継続していくことが大切との意見があった。

第2回目部会は、書面開催で令和2年度「自宅ですっと」ミーティングの開催実績を報告し、メールやFAXで意見を徴収した。委員からは、自宅ですっとミーティングを継続して実施し、参加する個々の知識や能力が向上することで、その後の会議の効果もアップしていくとの意見があった。また、民生委員や生活コーディネーター、特に医師の参加が少ないことがあげられ、「自宅ですっと」の観点から、かかりつけ医の視点は必要だと考えられるため、医療関係者の参加を増やすような働きかけが必要との意見があった。

## 2. 令和2年度「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業

### 1. 令和2年度「自宅ですっと」ミーティング（圏域ケア会議）の開催実績

第2回地域支援部会（書面開催）資料より

#### 1. 開催回数

区	葵区												駿河区						清水区										合計	
	城西	安西 番町	城東 井川	伝馬町 横内	城北	千代田	長尾川	美和	賤機	安倍	服織	藁科	小鹿 豊田	八幡山	大谷 久能	大里 中島	大里 高松	長田	丸子	港北	興津川	両河内	港南	岡船越	高部	飯田 庵原	松原	有度		蒲原 由比
回数	1	1	4	1	0	3	4	1	0	1	2	1	0	0	4	2	0	9	5	0	2	1	0	0	0	2	0	0	5	49

- ◆ 29包括の内、18ヶ所の包括（62.1%）が会議を実施している。11か所の包括（37.9%）は、R1年12月末現在までに会議を実施できていない。未実施の理由は、「今後（年度末までに）実施予定」、「計画をしたが、コロナ禍で地域住民や参加者から実施の同意を得られなかった。」「新型コロナウイルス感染拡大防止のため、法人として集合での会議の開催を自重した」等であった。

#### 2. 圏域ケア会議の参加者

地域包括支援センター職員（自包括）	地域包括支援センター職員（他包括）	高齢介護課	生活支援課	保健所	健康支援課・保健福祉センター	（管理）栄養士	歯科衛生士	消費生活センターの職員	こころの健康センター	上記以外の市職員（消防署職員除く）	介護支援専門員	介護保険事業者及び福祉施設職員	医師		歯科医師	薬剤師	MSW・看護師・PT・OT・ST等	権利擁護センター	地域福祉コーディネーター	生活支援コーディネーター	⑱⑲⑳以外の社協職員	自治会・町内会の関係者	民生委員・児童委員協議会	地区社会福祉協議会	NPO・ボランティア団体	上記㉑㉒㉓以外の地域の関係者	警察署・交番の警察官	消防署の職員	弁護士・司法書士	ご本人	ご家族	その他	合計
													かかりつけ医	かかりつけ以外																			
218	54	6	4	1	14	0	0	0	0	17	169	37	2	2	1	17	22	0	1	36	2	12	76	29	0	26	4	0	0	1	15	86	852
25.6%	6.3%	0.7%	0.5%	0.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	19.8%	4.3%	0.2%	0.2%	0.1%	2.0%	2.6%	0.0%	0.1%	4.2%	0.2%	1.4%	8.9%	3.4%	0.0%	3.1%	0.5%	0.0%	0.0%	0.1%	1.8%	10.1%	100.0%

## 2. 令和2年度「自宅でずっと」在宅医療・介護連携推進事業

### 2. 令和2年度「退院支援モデル普及事業」検討会実績

#### 目的

本人、家族の在宅療養の希望をかなえる、病院と地域（在宅）の医療・介護の連携イメージをそれぞれの専門職が共有し、「見える化」「実践」するとともに、市民の在宅医療・介護連携への理解を進める。  
令和2年度は現状把握と課題解決に向けた検討を行う。

#### 事業内容

退院支援における病院（令和2年度は2か所の病院を選定）と在宅の医療、介護の連携について、多職種によるミーティングを年2回開催し現状を把握し、解決に向けた検討を行った。

#### 参加者

医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護保険事業者、病院医師、看護師、MSW、地域リハビリ推進員、地域包括支援センター等（1グループ14名、2か所）、オブザーバー

#### 実施内容

##### 2グループ合同開催

- ・静岡リハビリテーション病院
- ・静岡市立清水病院

##### 第1回「退院支援モデル普及事業」検討会

日時：令和2年11月4日（水）19時15分～21時00分

場所：城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟3階 第1、2、3研修室

参加者：静岡リハビリテーション病院グループ委員13名、広域支援センターオブザーバー3名  
静岡市立清水病院グループ委員14名、広域支援センターオブザーバー1名

合計  
31名

内容：事業説明「退院支援モデル普及事業」について  
グループワーク「退院支援における現状の把握」

- ・静岡リハビリテーション病院
- ・静岡市立清水病院

##### 第2回「退院支援モデル普及事業」検討会

日時：12月新型コロナウイルスの感染防止対策として、書面開催とし、メールやFAXにて意見照会を実施

内容：課題の整理

#### R3年度

- ・静岡リハビリテーション病院
- ・静岡市立清水病院

令和2年度をふまえて、課題解決に向けて検討  
「シズケア\*かけはし」を活用したモデル事業（仮称）の活用

退院支援に関する市民意識調査を実施（ACPも含む）



### 3. 令和2年度 医療・介護・福祉スーパーバイザー人材配置事業

病院や地域の医療・介護・福祉関係者等から在宅医療・介護に関する相談を受け、公正中立な立場から、かかりつけ医の紹介や介護・福祉サービスの調整等に関する助言・情報提供、関係機関との調整などを行う“スーパーバイザー”を配置。（継続）

委託先	静岡県静岡医師会						静岡県清水医師会					
配置場所	医療・介護連携推進センター (静岡医師会館内)						在宅医療介護相談室 (清水保健福祉センター 清水医師会内)					
主な資格/人数	看護師/1人						社会福祉士/1人					
延べ相談件数	<b>85件 (R2.4~R3.2)</b>						<b>187件 (件 (R2.4~R3.2))</b>					
	110件 (H31.4~R2.3)						110件 (H31.4~R2.3)					
	128件 (H30.4~H31.3)						66件 (H30.4~H31.3)					
	105件 (H29.4~H30.3)						121件 (H29.4~H30.3)					
月別相談件数 (件)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	12	9	7	7	12	3	2	14	21	19	16	18
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	10	9	2	7	7	未確定	22	25	21	11	18	未確定
主な相談内容 (複数計上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護の制度、サービスに関する相談 42件</li> <li>在宅療養に関する相談 27件</li> <li>かかりつけ医に関する相談 21件</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医に関する相談 38件</li> <li>在宅療養に関する相談 35件</li> <li>医療・介護の制度、サービスに関する相談 21件</li> </ul>					
主な相談者	<ul style="list-style-type: none"> <li>居宅介護支援事業所 50件</li> <li>地域包括支援センター 21件</li> <li>診療所(医科) 4件</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>居宅介護支援事業所 60件</li> <li>地域包括支援センター 34件</li> <li>地域(民生委員・地区社協等) 19件</li> </ul>					
主な対応 (複数計上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談者への情報提供、指導助言 83件</li> <li>退院時カンファや地域ケア会議等への参加 4件</li> <li>医療(医療機関等)との連絡調整 4件</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>相談者への情報提供、指導助言 110件</li> <li>医療(医療機関等)との連絡調整 30件</li> <li>福祉(行政、社協等)との連絡調整 25件</li> </ul>					
対応終了件数/割合	42件/93.3% (2月末現在)						103件/96.3% (2月末現在)					
その他	担当者連絡会(3回)、県主催連絡会での活動報告、意見交換											

在宅医療に関する市民の理解促進を図るための市民公開講座と、在宅医療・介護連携のため、医療介護の専門職に向けた研修会を同時開催する企画を立案したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、次年度に延期とした。

【 企画案 】

令和2年度 静岡市在宅医療市民公開講座  
～対話を通して「人生の終わり方」について考える～

鍵になる問い  
「よい人生の終わり方とは、どのようなものだと思いますか？」

- 開催日 令和3年3月6日（土）
- 場 所 カーニープレイス清水
- 対 象 静岡市民（一般市民、家族介護者）  
市内に勤務する医療・介護専門職
- 定 員 オンライン参加者50名、来場参加者70名
- 講 師 静岡大学 竹之内 裕文教授
- 受講方法 来場とオンラインによるワークショップ型研修
- 内 容 鍵になる「問い」について、“対話”（グループディスカッション）を通して考える。



次年度に延期とした。

令和2年度 静岡市在宅医療市民公開講座

～対話を通して、「人生の終わり方」について考える～

< 鍵になる『問い』 >

「よい人生の終わり方」とは、どのようなものだと思いますか？

静岡市は、市民が、できる限り、健康で人生を楽しむことができ、住み慣れた「自宅ですづつ」、自分らしく暮らすことができるまちづくりを目指しています。そして、ご本人やご家族の思いを大切にしながら、医療・介護の多職種が連携し、在宅療養生活を支援しています。ご自分や、ご家族の「人生の終わり方」について、考えたことはありますか？市民の皆さん、介護をされているご家族、医療・介護の専門職、皆さんで“対話”（グループディスカッション）を通して、一緒に考えてみませんか。

**参加料**  
無料

令和3年  
**3月6日(土)**  
15:00～17:30（開場 14:00）  
場所：カーニープレイス清水6階  
（静岡市清水区江尻東1丁目1-5）

**定員**  
・オンライン参加者 50名  
（Zoomを使用します）  
・来場参加者 70名

**対象**  
静岡市民及び介護をされているご家族  
静岡市内にお勤めの医療・介護専門職の皆様

**お申込**  
裏面「参加申込書」により、FAXにてお申し込みください。

【 講師 】

国立大学法人 静岡大学 竹之内 裕文教授

東北大学理学部数学科卒、東北大学大学院文学研究科博士課程修了（文学博士）。専門は哲学、倫理学、死生学。ハイデガー研究から出発するも、ある在宅緩和ケア医との出会いを通し死生学研究に専ら、農学部着任後は「生命環境倫理学」と「農と食の哲学」の構築に挑戦している。死生学カフェと哲学対話塾を市内で主宰する。

《 研修の進め方 》

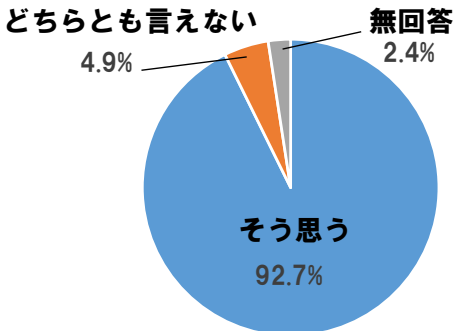
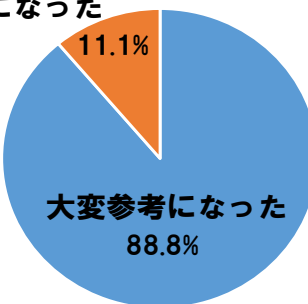
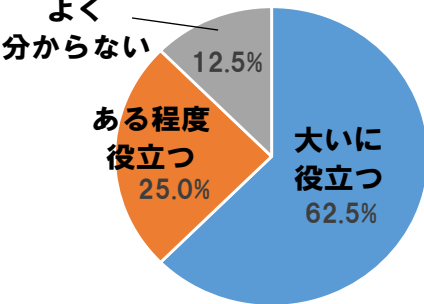
講師からのイントロダクション後、Zoomのブレイクアウトセッション機能を利用して、グループに分かれ、『問い』について話し合ってください。来場者の方は会場でグループディスカッションを行います。

交通アクセス  
会場へは公共  
交通機関をご  
利用下さい。

主催・お問合せ先  
静岡市 保健福祉長寿局地域包括ケア推進本部  
電話 054-221-1576 FAX 054-221-1577  
Eメール [shiiike@city.shizuoka.lg.jp](mailto:shiiike@city.shizuoka.lg.jp)

**まるけあ**  
<https://maru-ke.net>

在宅医療を担う医師及び訪問看護師の確保を図るため、医師会との共催により養成研修を企画・運営。

共催者	静岡市静岡医師会	静岡市清水医師会														
<p>研修会</p>	<p>◎研修名：在宅医療に関する意見交換会                      ◎開催日：令和3年1月23日（土）                      ◎内容                      ◇第1部                      静岡市静岡医師会 医療介護連携推進センター紹介                      ◇第2部                      ・事例紹介 たんぼぼ診療所院長 遠藤博之氏                      ・講演                      「人生の最終段階をどう支えるのか」                      ～地域包括ケアと多職種連携のなかの生命倫理～                      講師：静岡大学名誉教授 松田 純氏</p> <p>アンケート結果より</p> <p>Q 自身の業務の参考になるか？</p>  <table border="1"> <caption>アンケート結果 (参考になるか？)</caption> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>そう思う</td><td>92.7%</td></tr> <tr><td>どちらとも言えない</td><td>4.9%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>2.4%</td></tr> </table>	回答	割合	そう思う	92.7%	どちらとも言えない	4.9%	無回答	2.4%	<p>◎研修名：在宅医等養成研修会「感染症と地域医療」                      ◎開催日：令和2年10月22日（木）                      ◎内容                      ◇講義                      「感染症と地域医療」                      ～病院・診療所・在宅の連携で迎え撃つ今冬のCOVID-19／インフルエンザ～                      講師：静岡済生会総合病院医師 草ヶ谷 英樹氏</p> <p>アンケート結果より</p> <p>Q 本日の感想ついて、該当するものにチェックしてください。</p>  <table border="1"> <caption>アンケート結果 (本日の感想)</caption> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>大変参考になった</td><td>88.8%</td></tr> <tr><td>参考になった</td><td>11.1%</td></tr> </table>	回答	割合	大変参考になった	88.8%	参考になった	11.1%
回答	割合															
そう思う	92.7%															
どちらとも言えない	4.9%															
無回答	2.4%															
回答	割合															
大変参考になった	88.8%															
参考になった	11.1%															
<p>同行訪問研修</p>	<p>◎実施期間：令和2年11月～令和3年1月                      ◎実施状況：7カ所、11名                      ◎報告会：令和3年3月5日（金）</p> <p>アンケート結果より</p> <p>Q 今後の診療に役立つと思うか？</p>  <table border="1"> <caption>アンケート結果 (今後の診療に役立つと思うか？)</caption> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>大いに役立つ</td><td>62.5%</td></tr> <tr><td>ある程度役立つ</td><td>25.0%</td></tr> <tr><td>よく分からない</td><td>12.5%</td></tr> </table>	回答	割合	大いに役立つ	62.5%	ある程度役立つ	25.0%	よく分からない	12.5%	<p>◎実施期間：令和2年11月～令和3年2月                      ◎実施状況：2カ所、5名                      ◎報告会：令和3年3月22日（月）</p> <p>報告会より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの症例を見学でき、大変勉強になった。</li> <li>・整った環境ではない中で、素早い手技が必要なため、熟練を要すると感じた。</li> </ul>						
回答	割合															
大いに役立つ	62.5%															
ある程度役立つ	25.0%															
よく分からない	12.5%															

## 6. 在宅医療出前講座「在宅医療・介護ってなに?」「いつまでも元気であるための栄養とお口の健康」実績

在宅医療に関する理解促進を図るため、市民が希望する会場へ、専門職が講師として出向き講座を開催した。

テーマ	① 在宅：在宅医療・在宅介護ってなに？ ② 栄養（食・口腔）：いつまでも元気であるための栄養とお口の健康（フレイル事業と連動）
受講団体	ボランティアグループ 1、市主催 1 計2団体
受講者数	91人
講師	①在宅：平成28～30年度の「自宅ですつと」ミーティングに3回以上出席した専門職のうち、講師活動の希望者 ②栄養：専門職
開催月	10月1回、11月1回、R3年1月1回、2月2回 計5回

### 実績一覧

#### ①在宅

(敬称略)

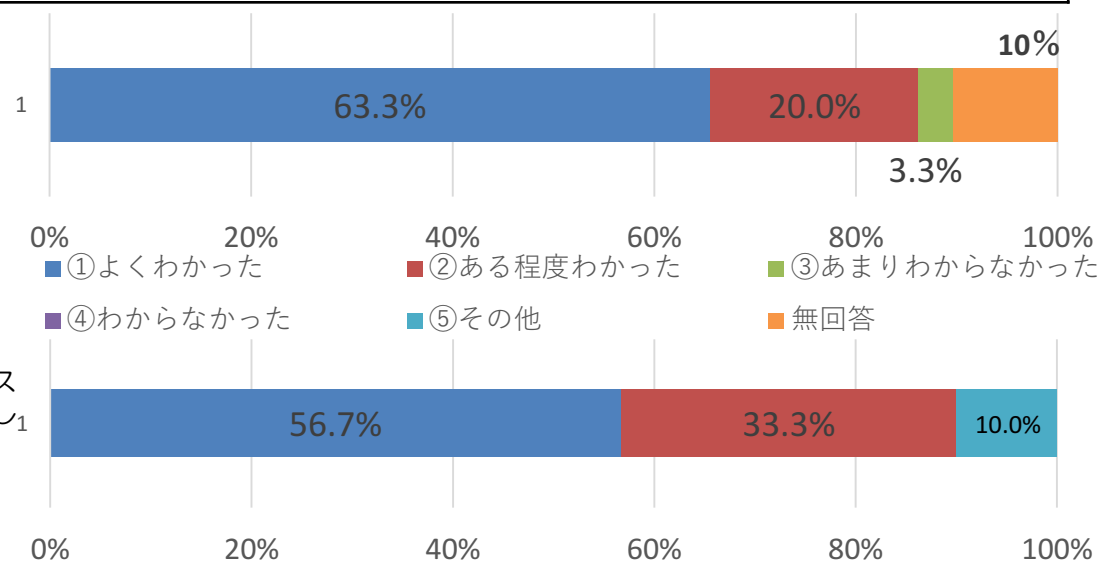
講座実施日	申込団体	講師名	資格	講師所属	参加者数
11月19日	静岡市	渡辺 友秋喜	介護福祉士	日本堂	20
2月13日	あおい介護者パートナーズ	鈴木 麻衣子	看護師	リハビリデイサービス nagomi	14

#### 在宅：アンケート結果より

n=30 回収率 88.2%

Q 地域の医療・介護の専門職が、在宅医療・介護の現場で、どんな役割を担っているのかを知ることができましたか。

Q 専門職が提供できるサービスやケア内容について理解できましたか。



#### ②栄養

(敬称略)

講座実施日	申込団体	講師名	資格	講師所属	参加者数
10月15日	静岡市	望月 佳子	管理栄養士	静岡県立大学	23
1月22日	静岡市	坂田 千穂	歯科衛生士	市口腔保健支援センター	11
2月18日	静岡市	坂田 千穂	歯科衛生士	市口腔保健支援センター	23

#### お口と栄養アンケート結果より

n=24 回収率 42.1%

Q 本日の講座の感想をお聞かせください。

